

昭和三十一年六月十九日招集(才二号)  
第二面市議會定例會々議錄



館山市議会第二回定例会会議録(第一号)

昭和三十九年六月招集

一 六月十九日(金曜日)

一 現在議員三五名でその氏名次の通り

一番 吉田勇治郎 二番 鈴木正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石伝蔵

五番 田中祿郎 六番 秋山大三郎

七番 田村源治郎 八番 望月照正

九番 安西益男 一〇番 辻田 実

一一番 石井 正 一二番 黒川佐太郎

一三番 菊井敏博 一四番 志村信作

一五番 小沢恵太郎 一六番 関 武史

一八番 西村真次 一九番 藤田好治

二〇番 保科忠夫 二一番 江田徳太郎

二三番 荻塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 荻生田七郎

二六番 鈴木孝 二七番 嶋田繁

二八番 山田教宇 二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤亀吉 三一番 安沢徳順

三二番 三沢節 三三番 高橋文治

三四番 山本昇 三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一、議事日程（第一号）

第一報告第一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定

に附する専決処分報告について

第二報告第二号 昭和三十九年度館山市一般会計補正予算に

関する専決処分報告について

第三 通告質問

第四 諮問第一号 公有水面埋立について

第五 議案第七号 千葉市外九十四市町村の軽自動車税、賦課徴収に關する事務を行う職員、共同設置規約の一部改正について

第六 議案第七一号 館山市財政事情の作成及び公表に關する条例の一部を改正する条例の制定について

第七 議案第七二号 館山市学校職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

第八 議案第七三号 人權擁護委員の推薦について同意を求めらるについて

第九 議案第七四号 館山市非常勤消防団員に係る限取報償金の支給に關する条例の制定について

第十 議案第七五号 昭和三十九年六月に支給する期末手当の特

例に於する条例の判定について

議案第七六号

昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

議案第七七号

昭和三十九年度館山市と畜場特別会計補正

第二

予算

議案第七八号

昭和三十九年度館山市簡易水道特別会計補

正予算

議案第七九号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計補

正予算

一、法第百三十一条による出席説明員

市

長

本間

謙

助

役

小出

武男

収

入

役

完

戸

貴

秘

書

課

長

小

倉

澄男

企

画

課

長

谷

貝

茂生

庶務課長	山口 実
財政課長	長谷川 広治
市民課長	羽山 房雄
調査課長	高木 哲三
収納課長	多田 俊一
商工観覧課長	小沢 正治
農林水産課長	伊藤 孝太郎
保健衛生課長	池田 亮山
衛生施設課長	吉田 耕一
福祉事務所長	鶴沢 貫寛
土木課長	新井 重助
建築課長	高野 亮三
消防署長	岩田 実
環境書記長	大嶋 重義

診療所事務長

岩崎一郎

教育長

工藤和平

庶務課長

干場伊右衛門

社会教育課長

利田正男

一、本議会の事務局長、局長補佐、書記、及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書記

兵藤恭一

取員

錦織睦子

一、出席議員

三四名

一、欠席議員

一名

二六番

鈴木孝

午前十時〇七分

開会



・議長(黒川佐太郎君)本日、出席議員数 三十三名。

こより第二回市議会定例会を閉会いたします。

二。際、報告申し上げます。私、こたび、果下市議会議長会  
の要請により、こより、全国市議会議長会、駒東市議会  
議長会の理事に選任されたのでありますが、せっかくの推  
薦であり、すうで、や、辞任もどうかと考え、これを引き受け  
た次第であります。

承わりますところによりますと、なかなか、忙し役目なそうで  
難念をさよるところもございしますが、何とかがんばって参りたい  
と考えておりますので、今後、皆さま方のより、いっそう、中、支援と中  
協力をお願い申し上げる次第でございます。以上、中、報告  
申し上げ、こより、お願い申し上げます。

・議長(黒川佐太郎君)本定例会、議案説明のため、本間市長、小  
出助役、尻戸収入役、小沢課長、谷貝課長、小倉課長、

山口課長 長谷川課長 新井課長 高野課長 伊藤課  
長 高木課長 多田課長 鶴沢所長 吉田課長 池田  
課長 大嶋書記長 岩田署長 工藤教育長 小柴  
課長 利田課長 以上より出席を求めましたので、中報告  
申し上げます。

会議録署名員は決定を行ないます。 会議録署名員に  
九番議員 安西益男君、二八番議員 山田教宇君 以上  
両君を指名いたします。 以上より異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。 よって指名通り  
決まりました。 会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会議長と協議会、委員は本日  
から六月二十六日まで五日間ということになります。  
おはかりいたします。 会期を五日間と定めますことに仰

異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたしました。四月、五月の例月検査報告はお手元に配付の通りであります。この際おはかりいたします。

直ぐと季節も変署の候となりますので、当分の間、略衣により会議を行ないたいと思います。

この中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたしました。

本日の会議はお手元に配付の日程表により行ないます。  
この中市長の説明を求めます。

(市長登壇)

。市長(本間 讓君)であいつ申し上げます。

本日ここに本年第二回の定例市議会を招集いたしました。当面する諸案件のうち審議をお願いすることとなりました。今回提案いたしますものうち、報告関係では市税条例の一部を改正する条例の制定に関する専決処分と昭和三十九年度一般会計補正予算に関する専決処分報告であります。

こゝらは急施を要し専決処分をいたしましたので、地方自治法第百七十九条第三項の規定により市議会への報告の二件、その他上程いたします議案といたしましては、規約関係の議案といたしまして、軽自動車税の賦課徴収にかゝる共同設置規約の一部改正、財政事情の作成、及び公表に関する条例の一部改正、高等学校取員の給与条例の一部改正、期末手当の特例非常勤消防

団員にかかる預取報償金支給に关する条例の判定等がありすが、こゝろは関係諸法令に準拠して市条例等を改正または判定するものであります。その他人権擁護委員の推薦に当り議会の同意をお願いすることでありすが、中同意下さるようをお願い申し上げる次第であります。その他予算関係につきまゝては一般会計、補正予算千七百七十八万六千円、ほか特別会計三件、三百九万三千円を上程いたしますが、各議案につきまゝては、関係各課長をして詳細な説明をさせますので、よろしく慎重な審議をほどをお願い申し上げます。（拍手）

議長（黒川佐太郎君）日程第一報告第一号を上程いたします。

（書記朗読）

報告第一号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定に关する専決処分報告について。

調査課長(高木哲三君)市説明申し上げます。この法律の改正は、三十九年三月三十一日に国会を通りました関係で固定資産の賦課が五月にございます関係で五月にしなければならぬので専決処分をいたしました。

議案について市説明申し上げます。

二十四条第一項第三号中とございますが、これは個人の市民税の非課税の範囲でございまして、障害者、未成年者、老令者の控除が十八万円から二十万円になった。

三十四条第二項中とございます。法三百十四条の第七項これは勤労学生と定義をしておりますところでございます。これは一項繰り上って七項ということにいたしました。勤労学生と申しますと自己の勤労について得た以外の所得が二十万円を越えたと勤労学生とはならないということでございます。

第四十六条中とございます。これは特別徴収の納入区分でございまして、今まで計算書を市長に提出しければならぬことになっておりましたが、これは提出しなくてもいいということになったわけでございます。

五十六条でございますが、これは学校法人によらずに財団法人、社団法人が経営する看護婦の養成所等につきまして、固定資産税の非課税の規定でございます。これは看護婦の看護婦の不足を生じている関係でこの改正をいたしております。

七十一條、これは新築住宅に対する固定資産の減額でございます。二十五年以下、新築住宅に対して二分の一の軽減措置を取ることになっております。軽減するのには一応本人から市長に納税義務者の住所、氏名及び家屋の住所、家屋の番号、種類、こういうことを申告を出していただくことになって

あります。こゝも評価額八万以上の中では、二十五坪以上でも軽減措置がございません。耐火構造は鉄筋コンクリートで十二万円、簡易耐火構造 とういうものについて十万、こゝ以上う評価の家屋については軽減は認められな  
いことになっております。

九十三条中、こゝは、たゞは消費税が百分の三・四から百分の十五になつたのでございます。

九十八条、こゝは、電気がス税が百分の八から百分の七になつたのでございます。

百三条でございすが、こゝは、電気がス税の軽減措置で  
ございす。

百十条は、税率の区分、明細書を提出しなければならぬ  
いという規定でございす。

百十条の二、八でございすが、三十九年度は、固定資産の



賦課が一日遅れましたために固定資産評価審査委員会  
の期間の特例でございます。

九でございますが、これは特例でございまして、課税標準の  
特例でございます。調整対象農地にかかるといふことは、  
は三十八年度の課税標準を使って課税するといふこ  
とでございます。

農地外の定地等につきましても、その課税標準が三十八  
年の一・二倍を越えてはならないという規定でござい  
ます。十でございます。三十八年度分に固定資産を課せ  
らる土地については、三十八年度の課税標準を基礎と  
して同じ新しく課税の対象になったものについては、三十  
八年度に用いた標準によりまして、近隣の土地と  
均衡を失うないような価格を市長はきめなければなら  
ないということになっております。

これは新しく今度船形の漁港を埋め立てが該当すると思  
います。

それから日本放送協会が直接本来の事業の用に供する  
ものについては二分の一の額を課税標準とするということ  
になっております。

十一は調整対象農地の定義でございます。調整対  
象農地と申しますと三十八年度の評価と三十九年度の  
評価を比較いたしまして三十九年度の方が高くなった場  
合は三十八年を評価基準をもって課税の対象とす  
るということでございます。

下った分につきましては下った数字を用いることになっておりま  
す。調整対象宅地ということになっておりますがこれは三  
十八年度、三十九年度の評価を比較いたしまして、三  
十九年の方が高くなった場合はその課税標準を三十八

年度の一・二倍を越えてはいけな。一・二倍の額が課税標準になるので宅地等につきまゝでは、調整対象宅地というふうになっております。

十三、課税の対象になる調整対象宅地等につきまゝでは、三十八年度の一・二倍以上になってはいけな。ことになっておりますが、非課税の範囲が一・二倍よりまゝで、今まで二万円の二万四千円になつたうでございます。

十三は納期、第一期の納期を五月一日から六月一日。

十四、これはやはり、都市計画税も固定資産税と同様だといふことでございます。

十五も都市計画税につきまゝでは、調整対象は固定資産と同様に扱ふといふことでございます。以上でございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 本案はこれにて質疑を打ち切り討論

省略原案承認することにより異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって本案は承認  
されました。

日程第二 報告第二号

(書記朗読)

報告第二号 昭和三十九年度館山市一般会計補正予算  
に關する専決処分報告について。

財政課長(長谷川広治君)本件について中説明申し上げます。

この件につきましては四月に行なわれました事務改善の結  
果、窓口の統合ということが行われたのでございますが、その  
窓口で使いました電動式レジと申しますか、会計機を購  
入として千葉銀から五十万の寄付の申し出がございま  
したのでレジを購入したいということで考えられたわけで

でございますが諸般の関係から急施を要しておりますので五月三十一日づけで専決処分をいたしたものでございます。

なお、三十九年度予算から今までの追加更正予算というような名称が補正予算というふうに改たまりました。方式等もここに示しておりますような様式なので、ゆ了承願いたいと思います。

項目としては寄付金で五十万円を計上いたしまして、歳入合計六億五千六百七十九万四千円という総額になります。歳出におきまして総務管理費として五十万円を計上いたしました。

備品費に五十万円計上いたしまして、事務改善の仕事をするムースに行ないたい。かように考えて専決処分をいたしたものでございます。

・三五番(松本藤太郎君)市長さんにお尋ねいたしますが、専決処

分り二つの報告でございますが、提案理由の説明によりま  
す。と、急施の必要を認めた。よって自治法第百七十九条の  
規定によつて処分をした。こうおっしゃりますが、内容を見ますと  
報告第一号の処分については、三月定例会において新法に対  
する付屬条例である。当然、そうときにおななければならぬ  
条例である。さらに報告第二号、これは明らかに寄付金で  
し、かも寄付をしたところ、或いは使途というもうも、今の課  
長さん、説明ではわかりました。が、こういうものを急施とい  
うような判定がどうして出たのか。その点をお尋ねいたいた  
と思ひます。

市長(本間 譲君)お答えいたします。専決処分の条例につきま  
しては、三月三十一日に決定したわけでございます。そういう  
関係上、そつたわけでございます。

それから五十万の千葉銀行でございしますが、これは品物

でこちらに寄付するということだ話であつたんですが、品物ではエ合が悪いということだ金になつてきてその金で買ったわけでございます。そして、そういうふうに処置したわけでございます。  
。三五番（松本藤太郎君）第一項の点ですが、これが三月三十一日とおつています。が、固定資産税の賦課といひます。が、これが五月一日というただ今、説明があつた。その間、どうしてこういったようなものを、倉庫も条創が議会を招集するといひまがなひといひことはあり得ない。と私たちは思ふ。

品物でやろうといひたものが、現金にかつたといひましても、時間的な関係、そういうものもあるでしょうが、災害とか、そういうものは、償つてすぐにそれを使わなければならぬといひ、いろいろな考へ方も我々には、容易に出てこない。従ひまして、この専決一号、二号、というものは、専決処分をして、一まつた以上、あとは議会においてたとへ、承認されな

くてもその専決処分に対する効力は依然として残る。議会としてはなほだ恥辱的なものになる。そういう内容を持つものでありますので、専決処分をするという点については、今少し慎重にやっていたきたい。その点につきまゝ市長さん、考えを承りたい。

市長（本間議長）おおよそそのような気持ちを持って実はやっておりますが、本件につきまゝではただ今申し上げましたような事情のもとにやったわけでございまして、今後におきましてもいろいろ松本議長さんやおっちゃんのような考え方でやって参りたいと思ひます。

三五番（松本藤太郎君）私たちは、議会人として市長さんが市答弁、或いは課長さんや市答弁、そういうものは認められない。急務とは考えられない。四月に議会を招集しようとするはできた。四月も五月も招集されておられない。専決処分



かをするのは、市長の裁量でございますが、一カーその  
判定をなさるときには、立派な客観性がなければならぬ  
それなくしてただ、専断処分をするというそういうことにつ  
いて、私はいつておる。専断をする場合には、もう少し慎  
重に客観性のある判定によって、やっていただくという  
ことを申し上げておる。そのため、今のうちに今回はやる  
理由があつたのだからという中答弁では、納得できない。  
そういう意味でもって、再質問した。

・市長（本間譲君）今後におきまして、松本議員さんの、もう一度た  
ような考え方で、やって参りたいと思ひます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（里の佐太郎君）本案は、これにて質疑を打ち切り、討論  
省略報告通り承認することに、中異議ございませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって本案は承認さ  
れまゐりました。

日程第三通告質問を行ないます。

一、番議員 登壇願います。

(一、番議員 登壇) (拍手)

一、番(村田実君)社会教育の振興について質問申し上げ上  
げたいと思います。

議会におきましては再三、社会教育の重要性につきま  
しては市長さんはじめ教育長からも強調されておると  
ころでございます。

三月の議会におきましても社会教育は学校教育と並  
んで車の両輪のごとく重要なものであると教育長より  
数回にわたって述べられております。一、わが私は現在の  
市の社会教育についてその内容をつぶさに展望して見

るときにあまりに形式的で一部の人たちにすぎ行なわれて  
おるのではないかという懸念があるのであります。すなわち  
「教育基本法」は教育の機会均等を強調し教育の  
目的はあらゆる機会にあらゆる場所において実現さ  
しなげねばならないと明記されております。

社会教育の奨励は「教育基本法第ニ条」において国  
及び地方公共団体が責任を持って当たらねばならぬ  
と明記されております。

また「社会教育法」は「教育基本法第ニ条」に基く国  
並びに地方公共団体の社会教育に対する任務を明らかに  
してあるのでございます。一か一ながら当市においては  
「教育基本法」「社会教育法」などの法律を無視  
するがとき社会教育施設の設置、社会教育委員を  
はじめとして人事に対しても形式的に処理しているのでは

ないかと思わゆるのであります。

そこでこのようなことについては係系的にお伺いいたいたい  
と思うのでございます。

第一に館山市における社会教育の目標を今日のように  
飛躍的に社会が進展し或いは合理化が進み、市自体  
が大きく分解現象を起しているときどこにその焦点  
を置いているのか、個系的にでも知りたいと思つてあります。  
第二に「教育基本法」第二章第二項には、公民館等の施  
設の設置に地方公共団体は努力しなければならないと書  
かれております。こゝに書いた「社会教育法」では、公民館  
の設置とこゝの管理について明らかに書いており、その規  
模と公民館の設置及び運営に関する基準で「同法第  
三条」におきまして公民館の面積が三百三十平方メートル  
以上とするといつておるものであります。ところが町にいても

教育と観光に力を入れておるところでは、みんな立派な公民館も持っておるのでございます。

最近では市庁舎よりも立派な公民館を設立しているところが多くなっておるのでございます。身所なところでも、江見町、和田町、役場の新設よりも公民館の新設を先に行っております。千倉町では危険建物といわれておる役場より公民館を先に建てる話が具体的に進められておるのでございます。従って館山市においてもこの点はどういうふうに考えて、どのように対処するかお伺いしたいと思つております。また公民館の運営は具体的にどうようにしてどんなことが現在、公民館の実情の中でもって行われておるか、合わせてお伺いするつもりであります。

第三に館山市に市営の体育施設については市営アル

を一個持つのみであることは先にお伺いしたわけでございます。そこで社会教育法では体育活動を念んで取り組むことが明記してあるのでございますが、今までに社会教育委員会ではこうした体育施設の問題についてどんな処理をしてきたのか、お伺いいたします。

また本年度予算に計上されたところの体育館の設立についてはどのような調査、研究が社会教育的な立場において社会教育委員会の中でもってなされたか、この点について明らかにしていただきたいと思っております。

第四に社会教育委員の選出と体育指導員、選出については一部の人たちや町においてなされたのではないかと、いろいろが非常にあります。その点につきましても、どのようなものであるか、また、その選出方法と選出の根拠についてお伺いいたしております。これは社会教育

委員の選出基準におきまして「社会教育法」に定められたところの団体の選出、さらに学校、代表者の選出等の事項において、非常に無視された面があるという面もかね合わせでお伺いしたいのでございます。

第五に市々社会教育は歴史的に見ましても青年団を中心に発展してきたのであります。そうしてここ十年間、こゝろの青年団活動と相まって婦人会の活動が著しく考慮されて社会教育の主力を占めておったわけでございます。

しかしながら経済の成長とそれに伴うところの社会構造的変遷と鑑み市民層の分解は青年団活動を根底より不可能な状態におと入れてしまったのでございます。

現在農村部につきましてはほとんど青年の方はおりません。そういう中をもって農村を中心としたところの青年団活

動は衰微の一途をたどつてゐるのでございます。

いかに館山市が分解し、青年の人たちが地域から離れていつてゐる中でもつて社会教育が旺盛であるか、その実態をどうように把握してゐるか、お伺いしないわけでございます。以上、簡単に申し説明のほどをお願いいたしまして、市賛向にかえましていただく次第でございます。（拍手）

（教育長登壇）

・教育長（工藤和平君）ただ今の村田議員、通告賛向に対してまして、答弁を申し上げます。

第一点でございますが、社会教育の目標ということでありまして、たけいとも社会教育の基本方針といいたしましては、館山市の実態に即した社会教育態勢を確立いたしまして、各社会教育団体等の実質的な活動も特に今年はおリンピックの年でございまして、この年を意義ある



ものに健康で明かるい豊かな市を作るという目標を置いてあります。そこでこの基本方針に基きまゝて焦点目標といつてしまつては三つ上げてございます。

その第一は、公民館を中心とする社会教育活動の強化でございます。

次に青少年の健全育成、地域ぐるみの活動、従来々々もいたしますと、理論に終るといふうらさがありません。これを具体的に下部に浸透させる。いわゆる振興をはかるということでございます。

第三番目に道義の高揚、これも指導者、或いは上層部だけでなくてできるだけ下部組織に浸透するような活動方針を持っていきたい。これが社会教育の抽象的でございますけれども目標でございます。

第二点は公民館施設と活動についてどう考えておるか

こういうや質問でございます。

現在館山市の公民館の中で分館を含めまして独立した建物は遺憾ながら二つございません。

北条にある旧伝導館である公民館並びに館野分館、これだけでございます。一昨年からでいたが、那古、船形に修武館をいただきましてこれを那古、船形の分館といたしまして、二地区に一つというふうな形になっております。それ以外の富崎、神戸、西岬、豊房、九重、これは市役所の出張所、一部、或いは学校の一部を借りておるといふような姿でございます。

全然ございませんが、館山地区と船形地区、こういうことになっております。

そこで活動でございますが、公民館と分館の社会教育活動と、その地区地区に即した密着した実践活動

を行なっているわけですが、具体的にという中實向  
でございまして、具体的事項につきましては、第五点の  
社会教育振興の具体策、これに触れて申し上げたいと  
思っています。

というふうに考えておるかという中實向でございすが、  
私どもといたしましては、何と申しましても、施設を充実せ  
ねばならぬという観点から設置基準に合致した独立  
館を館山・船形地区に建てねばならぬ。こういう考えを  
持っております。各分館に専任の主事を設置いたしま  
して活動推進の中心にしたい。こういう希望を持ってお  
るわけでございます。

第三点、体育施設とスポーツ振興について、社会教育委  
員会が論議がどういふふうになっておるか。こういう中實  
向でございすが、体育の施設につきましては、完備した体

育館を市民のために強く要望しております。その次に市営プールの浄化装置が必要である。これは毎年市当局に要望しておるでございすけれどもいろんな関係で、いままで具現いたっておりません。なおこれに必要な観覧席、或いは電話の常設、今年度は臨時に、一ズンだけ開設いたいたいと思っております。

その他必要な施設の促進ということが、たびたび話題にのぼっております。なお各地区にあります公民館への体育施設も必要であらうか、というような話が、たびたび出ておるわけであります。

その次うスポーツ振興についてであります。体育協会を育成、充実していきたいと思ひます。その次には市民のスポーツ人口の拡大をはかる。過半数体育指導員が改選にかりまゝしてほとんど大部分の方は新しく選任されて

私たちはこの委員の働きを期待を持って今後におやんで  
おるわけでございます。

第四点 社会教育と体育指導員をどういうふうな方法  
で選出するか。こういうや質問でございますが、これはあ  
くまでも法にのっとってやったわけでございます。すなわち各  
学校の長や団体、社会教育関係の団体、さらに学識経  
験者、これは各地区の公民館、或いは分館に推薦方を  
依頼いたしまして、各地区から適格者の推薦を依頼  
いたしました。そうして事務局の案を作成いたしました。  
その候補者名簿を教育委員会に提出をいたしまして  
選任をいたしましたわけでございまして、おっしゃるような一部の人に  
よって、ということには毛頭ないわけでございます。

体育指導員の由題でございますが、スポーツ振興審議  
委員というものがございまして、や承知のうちにこれは「振興法

第十八条の規定により、市長に任命、設置といふのでござい  
ますので、館山市にはございせんが、その機能にわたるべき  
ものが、社会教育委員会において果たされておると私  
は思っております。その選出方法でございすが、これも  
「スポーツ振興法」第十條二項により、市長と社会的人  
望があり、スポーツに關する深い関心と理解を持ち、  
その義務を行なうのに必要な熱意と能力を持つもの  
の中から、教育委員会が任命する。こういう条項がござ  
います。さらに二に三十二年の次官通牒がございすが、  
それにあります。当該市町村に生活の根拠を置き、人  
格高潔で体育の振興に理解と熱意を有し、次の資  
格に該当するものであること、次の資格に該当すると  
いふのは二つございます。

市町村及び取場の体育に実績をあげている。その次は

一応、体育の学識経験者という法でございしますが、この二つの法にのつとて選考いたします。なお、選考に当たっては、社会教育委員会にはかつて推薦をうけていただき、そのを候補者名簿にのせまうて、教育委員会で選任をうた。かような次でございします。

第五点、社会教育振興の具体策というや、質問でございしますが、最初に重点目標を申し上げました二番目の青少年健全育成の推進強化でありますけれども、特に市街地や旧市街の地区の実態調査をいたしまして、それに基いて推進策を立ててでございます。何と申しましても家庭教育が非常に大事であるという観点から、家庭教育の奨励を大いにやらねばならぬと思っております。

そう次には青少年協議会、或いは相談員というようなものがございしますが、あらゆる機関との関係強化をい

たいということであります。

青少年教育、振興につきましては、これも市街地、それから農村地区、漁村地区、それから地区に合致したような青少年の育成、指導に当りたい。

成人教育の奨励でございますが、これは、やはり承知のように、今年度から、全国の市町村に文部省が家庭教育学級というものを設置するように、それに対しては、助成をするというふうな話がございしますが、これについては、いろいろ議論があるわけでございすけれども、例えば、婦人学級が相当、成績をあげている。それに家庭学級というものは、屋上屋を架すのではないかというふうな議論がありますけれども、実際、青少年健全育成が、運動が発足して、そして各地にいろいろ、その具体策が展開されておりますけれども、実際は、青少年の非行が依然として激増する



一途をたどつておるということが出ております。

のみならず、その非行の大部分は小・中・高、学生生徒によつて占めらるゝというふうなことからして、文部省当局の言を借りるならば、抜本的に家庭教育、学校教育、社会教育、この三者を検討いたしまして、そうしてお互いに三者の任務と申しますか、これをあつち立つ場において完全に行なわしめるためには成人教育の拡充の意味で家庭教育、学校級が必要だ、こういうのでございます。

従いまして本市におきましても、瀬戸小学校にこれを設置いたしまして、続いて近く神戸小学校に設置する考えでございます。

それから、老人教育、学級、若妻教育、学級、婦人学級、これは従来でございますけれども、これをさらに進めていきたい、こういうことです。

次に社会教育の淨化でありますがこのも特にオリンピック  
 ということでありますので、道路の愛護、或いは芥塵処  
 理の自覚、処理にあとですぐにたくなるそうでありま  
 すので、これを自覚さしてもらいたい。花いっぱい運動を展  
 開してもらおう。こういう具体策を持っております。

道義の高揚につきまゝては、国旗の掲揚、民族音に識  
の高揚、外国の国旗に対する尊重、並びに国際道義  
の涵養と申しますか、外国のマナーに対する理解を持  
 つということです。

公共施設を愛護する。時間を励行する。さらに親切運  
 動をあらゆる地区に、積極的に進めていきたいといふこと  
 であります。

スポーツの振興でありますがこのは、市民の運動会、地区  
体育会というような従来のごとくありますけれども、これをさらに

数多くやっていきたいと思ひます。

図書館活動の充実であります。これは基本図書の充実、基本図書と申しますのは例へば文学で申しますならば、文学叢書というようなものでなくて、文学概論、通論或いは文学に関する有名な著書というようなものを中心に、た書を集める。こういうものを基本図書と申すのだと、うでござい  
ます。

そういうものを充実することになつて、まんべんなく利用したい。巡回図書というような形に持つていきたいわけであり、ます。

これには人手の必要がございまして、増員を希望してお  
るわけでございます。

施設設備が現在、図書館では貧弱でございまして、特にあつの中に相当数のパーセナージュを占めてゐる児童の専用室と申します。児童室を一角でもかまわな

いので、雑音が入らないような一角を作りたいという考  
えを持ってあります。

最後に文化財の研究、指定でございしますが、従来有  
形文化財では市としては決田のつく跡をはじめ  
といたしまして、九件承認していたんですが、無形文化  
財ではつづり織がございします。今後どのような研究調  
査を進めまして指定を多くしていきたい。かような考  
方でございます。

まことにさつぱくでございまして、以上申し上げて答弁とい  
たします。

○一〇番(辻田実君)ただ今、答弁を伺ったわけでございします。こ  
れども、私は今教育長さんが答弁されたことにつ  
いては十年前からの社会教育活動の方針として掲  
げられておったわけでございます。

そういう中で目新し〜ということとはオリンピック77年である。  
それにそうということが入っただけで公民館活動の強化、青年  
年、非行消滅の涵養、さらに基本方針の中心の  
問題である。健康で明かす豊かな郷土、建設というよ  
うなことにしても十年、二十か年、こういう形でやってきて  
ある。従ってそういうような点については私充分知ってお  
ります。具体的にどうなされておるかという点に対  
して明らかなに言っていない点がございますので簡単に一つ  
一つお伺いしたいと思います。

簡単にや答弁を願いたいと思います。

まず第一に「教育基本法」「社会教育法」の中に明らかな  
に言っておるように社会教育団体というのは、今教育委員  
会でもって把握しておるものはないか、あるいは、具体的  
に名前だけ上げていただきたいと思います。

。教育長（工藤和平君）お答えいたします。社会教育団体と申しますのは、社会教育に関係、あるいはいろいろな団体でございますので、館山市で申し上げますと、例えば文化団体連絡協議会でございますとか、P・T・A、連合会、そのほか、単位、団体も含め、いろいろな文化産業等に関係のある団体、代表ということでございます。

。一番（辻田実君）非常に抽象的でございますけれども、数が非常に多いと思ひますが、その数だけお答え願ひたいと思ひます。

それから社会教育委員、選出について一部の人間に、よって選出されていくというところが強調さへまいない、私の立場から見ると、一部の人間だと言わざるを得ないというふうに思ひます。と申しますのは、社会教育委員

の選出に當りましては、各地区の公民館長に対して、その  
依頼としておるということでございます。従いまして社会  
教育団体を列記せよということは、社会教育団体から  
選出されたものの各簿によつて教育長が選んでいくと  
いうことになっておりながら、公民館長がそれと候補者  
を上げるといふことは、私は社会教育法の違ふであると  
思ふわけです。

私も現在も幾つかの社会教育団体に関係してあります。  
私はそれらの例えは、青年団とか、農事研究会、そう  
いうものについて一度も選出の相談はない。そういう  
指示は仰いでおりません。

その点について私はもつと明らかにするならば、公民館の  
館長は、社会教育法三十一条に基きますところの  
公民館は、市町村において設置するということが明

記されております。さらに「社会教育法第十条」にござい  
ます教育団体というものは公けう支配を受けないところ  
う教育団体であるということが明記されております。

従いまして私は公民館の館長が社会教育委員になる  
ということは各市の課長が市議会議員になる。また公  
民館の館長が自分で社会教育委員になり、さらに  
自分の地域から適当な人を選んでそうしてその人を任命  
させていくということについては明らかに情及びあり。そうい  
う意味におきまして一部の人ということですよ。

三中、四十、社会教育団体に委員を選出について相談  
なり、この点について質問するわけですよ。

館山の中央公民館長がほとんど社会教育委員になって  
おる法的根拠を明らかにしていただきたいと思います。

教育長（工藤和子君）お答えいたします。ただ今うお話は、



にびびり同っておりす。従いまして私といひましても  
根拠のある答弁をせねばならぬという観点から、県の社  
会教育課に出向きまして課長補佐にその見解を  
ただいました。それによりますと「社会教育法」の第十六条  
中、県内の通り、市町村社会教育委員は二十九条に規  
定する公民館運営審議委員会、委員をもつて充  
てることとができる。こゝ、各項目によつて二十九条というの  
は、委嘱の範囲が書いてある。その中に先ほど申し上げ  
ました学校長、社会教育関係団体代表、学識経験  
者、こうなつておる。で、館山市の場合に公民館、或いは  
分館長は偶然の一致かもしれませんが、委嘱範囲の  
二十九条の中に全部該当してゐる。――こうして、そ  
れがそのまま社会教育委員に充当できる。で、合法  
であるという見解をいたしております。

なおその他の団体も選考についてどうように考えたかという質問でございしますが、これもたびたび社会教育課長を介して社会教育委員と話し合いをしておそらく公けの席上でも話し合いができたと思っておりますが、十分納得できていた線では推薦をいただき、その線で教育委員会で選任した。こういう事情でございします。

一〇番(廿田実君) 公民館長自身がそのまま公民館運営審議委員に入るということ自体がわかりい。その点について法的根拠がない。

果の社会教育課長に聞いたということですが、果の社会教育課長その他に私も聞きまいた。そうしたら、そういう障害があるけれども、いろいろ社会教育の実情から社会教育委員については、人材が非常に少ない

ので中には公民館長が社会教育委員になっておられる  
方もございます。材料教育委員が社会教育委員  
になった例もございます。二ついう事例はあるけれどもこ  
のまゝくはない。二ついうことをいっております。

一ツや二ツながら館山市のように約十人に及ぶところの館  
長・副館長、分館長が社会教育委員になる。こういう  
ことは千葉県下一つもないだろう。それは行政的な欠  
陥だということとはつきりと云わねばならぬでございます。  
従いまゝ一人や二人入っておつても、やむを得ないだろう。

全部が自動的に入ったということについては法的根拠は  
ない。それとともに公民館活動をしていく中において現  
在の委員の構成の中では十分活動がでないから實  
向申し上げておるわけでございます。

これについて教育委員会はどのようにお考えになりますか。

。教育長（工藤和平君）お答えいたします。いろいろ話を承べ  
りまして、たが同じ課長補佐だと思ひますが、あなただにお  
つゝなと私とことと用事があります。少なくとも、  
違法ではないといふことは合致してあります。好ましくない  
といふ点は私も同感でございます。

従ひまして今後、選任につきましても十分意見があるとい  
うを体しまして慎重に選任したい。かように考えます。

。二番（辻実君）もっと露骨に中實向申上げます。今回  
の最後の委員会でもって皆さんの中でもってやめたい人が  
おられます。かといふことで提案したと思ひます。私は都合  
が悪いから止めるという人が一人おりました。二三人の方が  
団体の推薦でございますから、長がめつたからめつる  
かもしれません。かといふことであつた。その点についてはどう  
把握してあります。かお伺ひたいと思ひます。

・教育長（工藤和平君）いわゆる団体につきまゝでは、二十二年の団体に文書をおこしてなお、今も語る具体面につきまゝでは、教育委員会ではななくて、社教委員会でございますね。私、その席へおりませんので、事情がわかりませんので、課長に。

・社会教育課長（利田正男君）お答えいたします。ただ今、お語る面も一面あったかと思ひますが、（スグ）、形式的に学識経験者として選任という形でもって、社会教育団体には二十二年選びよって書面で代表者、や選任を得ることか、そういう方法をつかんでおるわけでございます。全部、そういう形で選任したということではないと思ひます。

・三番（辻田実君）社会教育委員の再任、再任でもって、この中で十年近く社会教育は固定してあります。これは結構でございます。

一、カーナバラ、今度の社会教育委員の選任についても現取の委員たちが学識経験者ということで教育委員その他を無視してもう一度、よろうではないかということでもつていく。そういう形式的に流れておるといことは、私はどうかと思う。その点を質問したい。

私はかような形で社会教育委員会が運営される、さらには公民館活動の不備、法律できまつたところの公民館の施設の不備、また過員の市勢振興の中でも、館山市は図書館の蔵書率が全国でも低いという数字が出てゐる。

こういう点について阻害してゐる点はどこにあるのか、この点について教育長は予算の面が阻害してゐるのか、人材がいなくて阻害してゐるのか、阻害の理由についてお答え願いたいと思います。

・教育長(工藤和子君)市費向の趣旨に合うような答弁も若干  
触れようだが、分館も独立したものを持って、設置基準に合  
ったものを持ってきて専任の主事・書記、それを配置し  
たい。端的に申し上げると、予算が足りない。人材は事  
富だと思っています。現在やっているだけで、おる方もそうそう  
たる。しかも献身的にやっておる中で頭が下ります。い  
かんせん、これに報いる報酬が少ない。自腹を切つて電話  
をかけろ。足をはこぶ、これに対して報いるものがないの  
であります。その点に大きな隘路があるというふうに  
私は思います。

○一審(辻田実君)市長さんにお伺いいたします。

ただ今、私が教育長に対して質問申し上げました通  
り、社会教育の阻害をしているものは、予算だという  
ことをいつております。

今後予算的な面でどの程度配置していく意思があるか。この点についてお答え願いたいと思います。

・市長(本間譲君) 公民館を新しく作るにかどういう大きな問題はさて置きまして、ただ今、電話料、金、たてかえ、いろんなことをいつておりまして、そういうようなところに必要な経費を――しては、ほかを節約――しても必ず考えでございます。

・一番(社田実君) 要望になりますけれども、私がこういうふうに質問しますと、教育委員会は具体的な方針を並べても、財政が阻害してある。

市長さんは最低限のものは支出していくという。

さらに予算、市会においても、社会教育は、学校教育と並んで、車の両輪だといっておきながら、公民館、社会教育団体、育成というものは、具体的に現われてこない。



私はその団体の一員として不満を感じず。そういう点のな  
いように市長さんも言われまいた。教育長さんもいつた  
その趣旨を十分実施していただきたいということとを要望  
いたしまして賛同を致したいと思います。

議長(黒川佐太郎君) 通告賛同は以上をもって終ります。  
た。暫時休憩いたします。

午前十一時三十五分 休憩

午後二時 十一分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き議事を開き  
ます。日程第四 諮問第一号を上程いたします。

(書記朗読)

諮問第一号 公有水面埋め立てについて。

・土木課長(新井重助君) 諮問第一号について、説明申し  
上げます。

今回、館山市の相浜漁業協同組合に埋め立てを申請  
がございまして、大正十二年の震災によりまして相浜港  
が隆起いたしまして関係上、従来の港が使用不可能とな  
りまして、災害復旧工事といいたしまして港の地先  
と航路のくっつきをいたしまして土を持ちまして新田の  
四〇九一・九三平方メートルと松崎地先 二四四・九番地の  
二一〇四・五二平方メートルの埋め立てを完了したのでござ  
います。埋め立て法によります。申請手続をいたしてござい  
ません。で、今回、諮問という形で相浜漁業協同組合  
より渠に申請をいたしたのでございます。渠より議会の  
の同意を願いたいということで、知事より諮問が参った  
のでよろしくお願いをいたします。

・三番(三沢 節君) 但今、説明がありまゝに諮問第一号につきまゝでは、八名の賛成者を得て発議者として答申案を提出いたしてありますので、よろしく願ひいたいたいと思ひます。

なお、答申案に訂正いたいたいと思ひますが、昭和三十一年三月十六日、千葉県知事より相模地先字新田及び松崎地先とかなうに訂正いたいたいと思ひますので、この案をよろしく願ひいたいたいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君) 本答申案は、よくて質疑を打ち切り討論省略いたし、可決することに申、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって本案は、原案通り可決さし、まゝに。

この際日程についておはかりいたします。

日程第十議案第七十五号は都合により先議と一直ちに議題といたしたいと思います。

ニハト申異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって日程は変更さしきりた。

議案第七十五号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十五号 昭和三十九年六月に支給する期末

手当の特例に關する条例の制定について

秘書課長(小倉登男君) 議案第七十五号につきましては説明申し上げます。

三十九年六月、期末手当につきまゝてかねてから、取員組合等からの要望もございまゝたので、その後種々協議いたしまゝの結果、総額におきまゝて期末手当十五割、勤勉手当三割、計十八割、夏季の期末手当を内定いたしまゝて本日、議会に特例に類する条例を提案いたしまゝて、審議をお願いする次第でございます。

第一条に目的をうたいまゝて、第二条に一般取員の期末手当をうたいまゝたが、これはあくまでも、館山市取員給与条例に規定されております十割というものに加えて五割を追加支給するという規定でございます。第三条に議會議員、期末手当を提案いたしまゝた。第四条に館山市取員、給与条例に準拠して支給いたしてあります。市長、助役並びに教育取

員について第二條によつてやるという規約でござります。  
 一番(石井正君)期末手当について質問いたします。

昨年は十九割プラスアルで本年十八割ということ  
 すが、ここではプラスアルというものは出ておりませんが、  
 常識からいって上るのが常識ではないかと思ひますが減  
 ったということ、この理由をもう少し細かく取員組合  
 とう交渉があつたならば、こゝの経緯についてもう少し  
 具体的にお話し願ひたいと思ひます。

・秘書課長(小倉登男君)お答へいたします。取員組合等  
 の要望によりまして、種々折衝をいたつてござります  
 が本年も取員組合より二十二割十アル五千円、要  
 求がありまして、十九市、津協では、二十四割、要  
 求でござりますが、本市は二十二割と五千円という要望  
 で参りまして、その後、市当局といつて、まあ、

財政事情等により合わせましてまた先般市の同一規模の六市助役会議というものを持っておりますが、そういうところに参りましていろいろ各市の意見を持ち寄りまして相談をいたしておりますが、昨年の自治省等の報告、そういうようなものもありましたので、それに左右されたというわけではないのであります。やはり自治体としてあり方ということで種々の論議をいたしまして結果、昨年の額を下回らないような額を支給しようではないかというような相談ができたのでございますが、それを各市の状況に応じておろす処理していったらいいんではないかというようなことによりまして、本市も職員組合と種々折衝したわけでございます。

館山市といえどもなるべくアルプというような形をとらずにすっきりした形で条例をもって支給してもら

いたい。それにしましても、それにはある程度、市が給与体系を緩和してやらなければならぬのではなにかということ。四月一日に一号アップを実施いたしまして、全取員の給与体系を解決するということは、短時日をもってしては困難でございます。今後執行部として積極的に調査していく。解決していくことを話合ひまいて、並ぶに初任給が是正というようなことを、取員組合に話合ひの上でこの十八割というものが要結していただいたというような状態でございます。

これに關係して超勤の支給問題もわらんであります。

こういう面につきまいて、取員組合と折衝いたしまして、

一一番(石井正君)一つには、自治省の制約というものが考えら

れる。もう一つは、財政事情という言葉が、出まゝにこの期

末手当については、当然、予算化してあるのではないかと私



は考えているわけです。

そこで我々常識からいけば当然、昨年と同額うものは出せるのではないか。同率うものが出せるのではないかというふうに考えるわけです。ただ今の説明では納得がいかないんです。が、それからプラスアルファという形で、超勤云々ということがありまうたが、その点についてももうサーくわしくお話を承わりたいと思います。

・秘書課長(小倉澄男君)　プラスアルファという形では、今後は支給しないということでございます。

○一番(石井正君)　自治省の制約があつて十二月にも貸付いたのだが、これはだんだんと減らされていくのではないかという危惧の念で貸付いたことを覚えておりますが、現在聞きますと、たいして制約は受けていないような、受けてはいないけれども、それがために低くしたのではない。財政事情云々はあ

るけれども当初予算化してあるで昨年と同率のものが出せるのではないか。こういうふうに考えるけれどもただいまの説明ではまだ十八割にいたという根拠の説明が不十分なんだということです。

秘書課長（小倉澄男君）あくまでも自治省としては、国家公務員に準拠してでなく、多額のボーナス等を支給するときにはある程度、行政措置もやむを得ないではないかというようにことが新制にもつておりますがそれが正式に文書で流れてきておるということとはございせん。一カー当局といつては一号アプアプもやったことだ。ななべス改定もなされておる。そういう面におきまして十八割が昨年の額よりも額にいた。まあ、それでもある程度上回つておるということでは組合といふ話に合った結果了解したということでございます。

なお予算でございますが、当初予算といたままでは、あくまでも条例通り、年額を補正して三十九割を予算に計上してありますので、今回は追加予算をいたしません。何とか予算内で十八割から、手当外のものも流用しても支給できる。そういうことで十八割にた次でございす。

○一〇番(中田実君)二点についてお伺いいたします。昨年も六月議会におきまして期末手当の問題について論議されたんですが、そのとき十九割というものが特例としておさへてある。しかしこれは特例として処理していくのか、という質問に対して特例ということでは処理していくと、毎年毎年額が一定しない。財政事情、そういうものによつて左右されるので、取崩し方は生活が不安ではないかという質問がなされたわけですが、いども、そのときに執行部

の方といた——まゝでは、そういうことはない。あくまでも、特例という形で提案しておるけれども、これは基準としてやうていくので、不安な出方ではないのだということもあつて、やらねたわけですから、私どもも、当然、そうとくに特例ということになつておるけれども、十九割という一つの率につきまゝでは、条例に準ずるというんですか。そういうふうな解釈しておる。

従いまゝで、その点については、また、今回特例ということですが、去年の算入額に對してどう思うておるのか。これが一点。

二点といつた——まゝで、そういう経費をたどつておる中におきまして、一割下がるということでもございますが、さつき「一番議算の言わねたように自治省の勧告、そういう制限ではない」ということにならば、当然、十九割が支給されていいのではない

いかと思う。下がるということは、特に財政事情、去年の同  
期と比べて悪いのか、悪いから下げたということでしょうか、  
けれどもその点について下げなければならなかった財政事情  
が悪かった面についてもう少し具体的に説明するいく形で  
もってお答えを願いたいと思うわけでございます。

。助役（かみ武男君）今、質問にそのままお答えになるかどう  
か、わかりませんが、期末手当の考え方についてここで申し  
上げたいと思います。

期末手当につきましては、承知通り条例できめてあり  
ます。一かもの基礎はやはり法律に規定してあり  
ますように、国家公務員に準じて地方公務員も行なわ  
れるべきものだという一点、行政指導というものはあるわけ  
でございいます。

。また、最近数年間の状況を見ますと、国家公務員は

もちろん十三割の線を一步もくずしておりません。

県庁あたりにも同様でございますし、町村あたりにつきましても、おそろくそれか、それ以下ではないかと思ひます。ひとり市のみが非常に先行しておったという形態が出ておるわけでございまして、この点にいろいろ疑義が出てくるわけでございます。

もちろん自治体でございます。自治体できめたものについてはどこまで執行することについては、制限を受けないわけでございすけれども、一カーニングという期末手当について、国の指導下において、そのルールからあまり飛び出すということとは本意ではないと私も考えております。

従いまして市のいき方というものを将来スクープつて正しいたゝまいて、少なくともこの基準にもとずく方向にいくのではないかというのが、私どもも全体の気分でございます。

従いまーて、これをどう是正するかというところに大きな問題  
があるわけでございます。従いまーて、この点につきまーて  
は、取組組合のいつも要望でありますベースが低いとか、  
給与是正が確立していないからというところに大体、要求の  
点があるようでございます。これをよく検討いたしまして  
ベースの是正をすることにするれば、別に市だけ飛び出  
していかないければならないという面もあるんではないか。こ  
ういうふうになるのは、やはり給与のことからきていると思いま  
す。従いまーて、今後は給与もいろんな角度から是正をいた  
しまして、方向としては、国々行政指導の線に持っていくとい  
う考え方でございます。これは今までやってまいりました過程  
から申しまーて、一朝にはいれないと思えますけれども、徐々  
に給与も是正しながら、正当にあーていこうという考  
え方でございます。

それらもう一つは、取組組合の理論とは合わないかもしれないが、やはり地域社会のいろんな関係も私どもとしては考えざるを得ないという点でございます。申し上げるまでもなく非常に土地柄によって違ふわけでございますが、そういうことを現在は一応考えないで、凍協の線を上台にして今までやってまいりました。

本年度は十八割に下げましたが、実質的に減つておらないという線が出たわけでございまして、それには、市承知の通り一号アップをいたしました。

こゝうは、給与でございまして、是正にはもちろんならぬいんですが、全体に一号を上げまして、幾分でもさうしたもう幾分によろという線が出まして十八割の線ができた。結果的に見ますと、昨年よりは、率は減つても、額においては減っていない。こゝういう考



えてやっておりますので、今後は十分人事課で検討し、ベースでこぼくがあつてはいけないうことに望んでおるわけでございます。

この間、課長、助役会議で検討した課程におきまして、ただ抽象的にベースが高いとか、安いとかいう比較の問題ですが、国家公務員と地方公務員では、三千円違うとかいいますが、そう取り方に調査う仕方に違いがあるわけでございまして、一応考えますベースと申しますと、総支出額も人員で割ったものをベースにしている考え方を持つてゐるわけでございますが、そう考えうかだと、国家公務員と地方公務員では、俸給体系が違ひますので、国家公務員の方が上にさるうは、当然でございします。いわゆる給料表の四等級が市でいへば、一等級に該当するということにきつておりますから、給与ベースの比較だけでは、

高い安い比較はできませんで突っ込んで今後例え  
ば高等卒が五年後にどういう状態にあるかといふこ  
とを取場ごと検討し合ひましてそれからこぼこがあ  
つた場合には高いとか低いという基本的な物指し  
にたつてはなないか、こういう考え方で今後めんどろな  
調査ですけれども、一つやりそつと点に取り組んで体系  
を整えていきたいという考えを現在持つておるわけで  
ございまして、本年度はとりあえずいろいろ計算を  
した結果、取負組合の方が多いということになつた  
ので本日提案をします。ようち額に落ち着いたわけで  
ございします。

○一ッ番(井田実君)大体、助役さんう意向はわかりました。

一つだけ伺いますが、先ほど秘書課長の方から財政事  
情を重点にして、市々財政の中で考えて十八割という

答弁がなされております。

助役さん、答弁は、国の指導にそつて法律に従つてその中で消化していきたいということをしてゐる。この点について執行部の意思統一を求めていきたい。

財政なり行政指導によつて一割下げたとか、その点について統一見解をお願いしたいと思ひます。

・助役（小虫武男君）課長が財政事情ということを申し上げましたんですが、この際申し上げておきたいと思ひますが、昭和三十八年度の決算の帳どりは約四百万円の単年赤字でございます。いうならば、本年度当初予算に二千七百万円の歳入を見込んでありますが、現実、繰り越し額は二千二百万円位ということ。四百二十万位の歳入欠陥を見ております。課長はぜひといったと思ひます。それも一つ理由になると思ひます。

ます。今後におきまゝで私どもも努力に努めて、歳入欠陥は本年度に埋め合せていきたいというふうに努力したいと思います。それとこれと一諸にいたことでございます。

・二三番(中村省吾君)ただ今う質問に對し、まゝで答弁があつたんですが、二人の答弁の中でプラスアルスは将来出ないという方向を堅持したいと課長さんはおっしゃつた。非常に結構だと思ひます。その意見には私も賛成いたします。

プラスアルスは付けないということとはよろしいとして、その中で助役さんもおっしゃつておつたが、初任給の是正をする。或いは体系是正をする。そういう中で取算の給金というものを見ていこう。従つて今までがボナスが生活給の一端という考え方を是正していくのだと

いう。毎月支給とそれによって生活を見ていく。その方向に持っていくという精神だろうと私は考える。

私が考えておることが間違っておれば答弁していただきたい。いわゆる従来支給しておる期末手当、そういうものは生活給の一端ではないのだという考え方に立つということだろうと思うわけです。ところが私には現状においてボーナスというものは現実の取算においては生活と切っても切れない一端であろうと思う。

極端にいうならば毎月赤字補てん金だといえる。

生活が苦しくて毎月赤字をこのボーナスによってまかなうのが現状だろうと思います。その点が一点あるわけです。そこで今回二十二割プラス五千円を要求しないということはおそらくそういうふうな生活が苦しいから、その一を寄せをそういう要求によってまかなっていくという

のが精神だろうと思つてわけです。ところがその要求に対して市は、今回十八割ということであつて、今の答弁を聞きましても、昨年の額を下回らない、実質的にむしろ多いのだという答弁がなされておる。

確かに金額そのものを比べれば、そういうことになるわけです。算術的に計算すれば、一カーながら、こういう私どもが給料というものは、算術計算はないわけですよ。皆さん方が存托だろうと思ひますが、物価が上つたからベースが上つた。昨年の十一月のベース・アップのときにそういう物価に伴なわない給料から、ベースが改定されたわけですよ。従つて昨年と同じ額をもつていて同額ということは絶対やけなひと思つてわけですよ。私どもが給料というものは、生き残りが生きていくための金でございます。従つてそれが同額だから同じだという

ことにはならない。そういう考え方はまず成り立たないと思  
います。そこでそういう考え方から二人の答弁を聞いて  
ありますと、確かに現在、給与体系、そのものにも矛盾  
がある。そういうことは、やはり指摘なきつてゐる。そういう  
があるにも関わらず、十八割と下げた。根本的な原  
因というものが私には納得できない。今申し上げました  
ように、額が算術計算ではないのだという基礎に立つて  
十八割に下げたのか、そのことをもう少し詳しく説明願  
いたい。

・秘書課長（小倉澄男君）お答え申し上げます。先ほど来  
私が財政事情というふうなことを申し上げましたんで  
すが、それに加えまして、助役さん答弁いたしたように、少  
でも地域社会の状況に合わせてというふうなことで、そう  
いうふうないろいろな面から見まわして、適当な額を十八割と

いうことについてた次方でございます。これも取員組合と  
いろいろ話し合つた結果、この願で了解を得た。それに  
関連いたしまして超福勤務の問題が並行して出たので  
あります。そういう点を協議した結果取員組合か  
らも了解を得たということであくまでも十八割に  
た。一割減らしたということは、先ほど助役がお答えいた  
ました通りあくまでも本来の姿に少くても許容せら  
れたいというのが本心でございます。それと財政事情からみ  
合せておるといふような結果でございます。

。二三番(中村省吾君)精神はわかるんです。本来の姿にな  
おそうといふことは結構でございます。

一かー本来の姿になおしたからだから本年は十八割だ  
こいなる。話がわかる。なおもいらないと将来、こいなる  
になおすからこいなるといふことはない。こいなるふうにな





ということば、はつきり実施したから、こうだというなら、私  
たちもわかる。二年先になるか、三年先になるか、わか  
らないときにそれを理由にする。そういうことがあるから  
私たちは納得できないということでございます。

もういっぺんや答弁願います。

・助役（小出武男君）ただ今の御意見もよくわかるんですが、  
ただ、これを根本的に考えまして、今まで出ておいた  
額が正しいかどうかということに考えなければならぬだ  
ろう、と思います。これが絶対に正しいという線がよければ、  
私どももこの線に必ずずそわなければ責任と義務があ  
るわけでございます。先ほど申しますように十三割か  
らオーバーてあるという場合は、地方公務員も地方課の  
話では千葉県位ではないかということでは、これを結果  
的にみまいて、正しいということに踏み切れないわけで、

先ほど申しますように、給与是正をしながら本来の姿にかえすというものはそこでございまして、本来の姿になっておれば十三割でいいわけですが、それが未定であるので、幾分づつでも徐々にたなわいていくという考え方であるわけでございます。

従いまして今後正確な調査をしながら本来の姿に持っていくという考え方でございまして、本年一応十割の線を出した。これによつて、取員組合の方も協調いたしまして了解したわけでございますので、この案を出したわけでございます。

二三番（中村省吾君）私が聞いていることと、答弁が的確な答弁がなされていないで、水かけ論的になってしまふ。私がいっていることは、十八割にいたということは、昨年と同額ではないのだということですか。下回っているということですか。

金額が同じでも、実質的に使う面では、その価値というものは下回つておるといふことなんです。その額で昨年なう生活はできない。従つて増額ではなく下つておる。

取員組合から二十二割プラス五千円、そういう要求が出た。その要求がそのままでは無理があるから、昨年と同じ額にして、くわという執行部の案なら、私もある程度納得できる。そこまでは諸般の情勢からできない。せめて昨年並みにして、くわ。こういう考え方をすれば、わからぬこともない。ところがそれをただ単に執行部としては、体系が本来の姿ではないといふことを知っておる。従つて今まで支給してきた期末手当というものは、その体系が本来の姿でないものをカバーするもので支給していったといふことといつておる。

こゝろいう形の中で期末手当にウエイトを置いて支給してきた。そういう形でなさいておつたものは現状でもその必要はあつていない。だから本来の生活給に値するものでないから、それを是正するためのボーナスであるという理論にはあつたが、従つて前回のものが正しいかどうかというやうなことをいいますのはどうかと思ふ。私もが、今までのボーナスにても責任を持つて議決したことであるわけですから、それを今さら持つてきて正しいかどうかということになつてくるとだまつていふやうになる。少なくとも私もが、今まで議決してきたものは正しい姿だというように考えなければならぬ。そういう考え方に立つて私たちは比重量というものはそこに置かなければならぬ。その考えでくるとどうしても昨年より下回つたという理由が納得できないわけでございます。もう少しその点を

はつきりおつてゐていただきたい。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時 二分 休憩

午後 三時 四十分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を続きます。

議案第千五百号に対する質疑を行ないます。

二三番(中村省吾君)先ほど質問でございましたが、いろいろ答弁の中にありまして、一点で率直にいつて納得できないわけですので、私も私の中で一番の問題となるのが、現在の取員の給与が非常に不合理であるということを認めなければならぬということであります。

この点は両者も認めておるようでございます。この十八割



にいくかどうか、完全にはいかないと思いますが、ある線が出て  
いわれる地方公務員のベースが他と実際比較して正しい  
線が出たという段階になった場合に正常な姿へ努力  
しますことは、ここで申し上げることはできます。

議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて質疑を打ち切り討  
論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって本案は  
原案通り可決されました。

議事についておはかりいたします。

日程第五議案第七十号乃至七十四号 議案第七十六  
号乃至七十九号の各議案は一括上程し、本日こゝら  
内容の説明のみにいたしたいと思います。こゝにや異  
議ございませんか。



(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決定いたし  
ました。

議案第七十号乃至第七十四号及び議案第七十六号乃至  
第七十九号を一括して議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十号 千葉市外九四市町村の整自動車税の  
賦課徴収に關する事務を行なう取具  
の共同設置規約の一部改正について。

議案第七十一号 館山市財政事情の作成及び公表に關す  
る条例の一部を改正する条例の制定につて  
議案第七十二号 館山市学校取具給与条例の一部を改正す  
る条例の制定について

議案第七十三号 人權擁護委員推薦について同意を求める

について

議案第七十四号

館山市非常勤消防団員に係る限取報

償金を支給に關する条例の制定について

議案第七十六号

昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

(第二号)

議案第七十七号

昭和三十九年度館山市と畜場特別会計

補正予算(第一号)

議案第七十八号

昭和三十九年度館山市簡易水道特別会計

補正予算(第一号)

議案第七十九号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計

補正予算(第一号)

・調査課長(高木哲三君)議案第七十号について申し上げます。

これは、渠下、市町村において年々市町村がかわつていき  
まゝで、そのたびにより規約の一部を改正し、おかげはならない

ような状態になっておりますので、今回千葉市外九四市町村とありますのを、千葉県下市町村に改めたわけでございます。

三条でございますが、これは事務所、所在地がかわりまいたので改めたわけでございます。

・財政課長（長谷川広治君）議案第七十一号について、説明申し上げます。財政事情の作成及び公表に関する条例の一部を改正する条例でございますが、自治法の改正によりまして、準拠条文の号数と申しますか、変更いたしまして、訂正いたしたい。かように考えて提案をいたしたものでございます。

・庶務課長（干場伊右エ内君）議案第七十二号について、説明申し上げます。

館山市学校取組費給与条例の一部改正でございます。

初任給調整手当でございますが、これは化学技術に关する専門的知識と必要としてまた採用による欠員の補充が困難であると認めらるる取に新たに採用せられた取員に採用の日から支給する手当でありまして、館山市学校取員給与条例別表の二、高等学校取員の給与表ニ等級の取、これはここでは、館山高校の教諭でございす。二よに新たに採用せられた取員に支給する手当でございます。今までの条例は、月額二千円を越えない範囲の額を支給するという事になっておたうでございす。が、県立高等学校の取員と同額とすうと、いうことで条例の一部改正をお願いする次でございす。千葉県の取員の給与に关する条例及び初任給調整手当の支給に关する規則の例によりますと、採用の日から一年間、月額二千五百円、二年目

から月額千七百円、三年目から月額九百円とわかって  
おります。

企画課長(谷貝茂生君)議案第七十三号につきまして中説明  
申し上げます。

人権擁護委員法に基いた今まで大人の方委員がいろいろい  
まいたが、任期満了によりまして後任者として七名の方を  
お願いしようとするものでございます。一名の追加は女の方  
も必要ではないかということでは後藤ゆきさんを追加いたし  
ました。この方々は、適任者と考えましてお願いいたした  
のでございます。

消防署長(岩田実君)議案第七十四号について中説明申  
上げます。

近年、非常勤消防団員の所遇改善が叫ばれておるうで  
ございますが、今回法令改正によりまして消防団員に対

する報償金に支給が法制化されています。市町村に支給が義務づけられなければならないことに基づいて本条例案を提案した次第でございます。

第一条は目的、第二条は退取報償金に支給額を定めてございますが支給額表でございしますが階級と支給額が退取した日、属した階級と退取年限によって支給されるようになっておりまして階級は四等級、勤続年数は三段階に分かれております。

最低三万円、最高七万円となっております。

第三条は支給の基礎となる階級でございしますがその階級に属した年限が二カ年内ではその階級に退取報償金を支給しないということになっております。

第四条は、退取年数の算定方法でございしますが、これは、非常勤消防団員として在取いたしました年限を合算

することになっておりまして、ただ、再び入団いたった方は、  
一年間在取のかければこれを算定しないというが、第一項で  
ございます。

第二項は再入団した場合でも再び限取したときまで、月  
が十二ヵ月にならないときは再入団した期間は算定  
しない。こういうことになっております。

それから第五条は死亡による限取の場合に遺族に限  
取報償金が支給されるわけでございしますが、その遺族  
の範囲及び支給の順位を定めてございます。

第一に配偶者、第二に子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹  
とになっておりまして、第三号の場合に上からの順位に支  
給するようになっております。実父母、養父母の場合  
には養父母を先にする。

第三項の場合には同順位の場合にこれを等分して

支給するというところでございます。

第六条は、退職報酬金支給の制限条項でございまして、これは功績のあった永年勤続の団員に支給するわけでございまして、そう在取期間中に制限が加えられておるわけでございます。

第七条は支給の時期でございしますが、これは退職したときに支給するということになっております。

第八条は細かい事務手続きについて定めることになっております。なお、附則によつて昭和三十九年四月一日以後において退職した永年勤続した消防団員に支給するということになります。以上よろしく中審議のほどをお願いいたします。

・財政課長（長谷川広治君）議案第百六号一般会計補正予算の二号について中説明申し上げます。



それぞい千百七十四万六千円を追加いたしまして歳入歳出とも六億六千八百五十八万円といたいたい。

歳出の部より申説明申し上げますが、事項列明細書と申覧いただきますと思います。

議会費におきまして二万七千円追加、議員共済会の事務負担金が決定したうでそれを追加したもうでございします。

。衛生施設課長（吉田耕一君）衛生費につきまして申説明申し上げます。

保健衛生総務費におきまして二十一万円をお願いいたうというもうでございします。これはかねて協議会等でも報告申し上げてあります館山・富浦・三芳・上水道の設置協議会が本年四月十五日にできましてその協議会によりまして今後一部組合というようなもの

も組織いたしまして正しい方法によつて今後の上水道設置を進めて参りたい。このように考えるわけでございますが、その前々促進的な協議会でございまして、三市町村によりましてその必要な経費、大体三十万を見込んでわけでございまして、この負担をいたしまして、館山市が二十一万円というふうに計画をいたわけでございます。なお分賦方法といたしまして、館山市と富浦町と三芳町というような比率によりまして計上したわけでございます。

・保険衛生課長（池田亮山君）衛生費のうち百十二万円、追加について市説明申し上げます。本追加は、日本国より予防接種に要する経費でございます。当初に予定いたした接種の方法が改まりましてそれに伴います消耗品が不足いたしますので、この補正

となるわけでございます。不足を生じます原因は、接種の方法が改まりまして、皮下注射に変わりましたのでワクチンが多く出ております。希望を取りまとめましたときに当初人数がはるかにオーバーしたものでございます。本支出に對しましては、全額実費負担でございますので、~~兼~~歳入にそのまま計上してございます。

商工観光課長（小沢正治君）第七款商工費の追加関係につきまして説明申し上げます。

追加をお願いする部分は観光費だけでございます。

第七節の賃金三十三万一千円であります。附記の説明の部分で西岬海岸清掃人夫とありますが、これは西岬海岸等としていただきたいと思っております。

西岬から船形、富崎、全海岸の清掃でございます。本年度夏が早く参りまして私どもの予定いたしました

よりも早く清掃人夫を投入せざるを得なかつた関係で十萬五千円大体三人うて十月分の不足が予定されるわけでございます。

それから海岸監視人の賃金といつて三十一萬六千円を計上するわけでございますが、これは昨年の状況からいたしまして本年度一応各休憩所ごとに一人づつ監視人の配置を考えておるわけでございます。

昨年の九十九里海岸における災害にかんがみまして各海岸とも非常に監視強化という方向が打ち出されて参りました。先般集の会議におきまして監視人の増員の要請がございまして当然といつても倍増することとを計画いたしましてこれを願ひする次第でございます。

次に八節の報償費でございますが、当初予算で海岸

清掃の、中学生に對しまして報償費といつて、鉛筆を謝礼として出す計画をいたつてございますが、年度当初に民謡の講習に一万二千円程度流用いたしまして、前係で不足の追加をお願いする次でございまして、十一節の需用費でございしますが、海水浴客の救急薬品を代として一万四千円、これは本年度、日赤をお呼びする予算定で計画いたつてございしますが、最近になりまして、日赤の方で、どうしても出てきにくいということであきらめざるを得なくなりまして、前係で、各休憩所に備えまする薬品を倍額程度増強する計画でございします。次に救命具三組とありますが、八組の誤りでございします。浮袋にロープを付けたものを八組程度購入いたしまして、用意いたしたいという考えで二万円をお願いする次でございします。

次に商工費の六万円でございますが七月十日予定まであります。休暇村宿舍の落成式につきましてこれは全国的に休暇村宿舍の落成式に休暇村で計画いたします。記念品代といたしまして各地え市町村で百万程度の負担をお願いしてあるので、館山市でもお願いしたいということで、落成式に対する記念品代六万円でございます。

役務費の一万二千元は六月下旬に海なし県特に埼玉地区に対します。新聞の千葉県下の海の特集がございまして、この広告料といたしまして一万五千元、次の工事請負費二十万円、これは所々崎灯台付近の共同便所が一カ所あるわけでございしますが、そこまでバスが入らないためにこの便所の費用が思うようにいっていません。そこで灯台の下の方に二十万円程度、約四坪の便所

を計画する予定でございます。

負担金補助及び交付金でございますが、これも大佐和町以南館山までの七市町村で夏の宣伝ホスターを実施する協議がまとまりましたので、その印刷分の負担金でございます。以上七十三万五千円を追加をお願いする次第であります。

土木課長(新井重助君)土木費の都市計画公園費において八十五万追加をお願いするわけですが、これは三月の市会に八十五万円をお願いしてございまして、ところが北条海岸休憩所工事は渠工事でございます。渠工事の中に給排水工事、井戸工事等でございまして、市がこれをやっていたきたいという交渉がございまして、八十五万、三月の市会にも願いました次第でございます。

いざ請負契約と取りまるところ茶店の方が移

転がはねばならぬ。いかなくなつて参りまして、三十八年度の予算は、そのままにしておきまして、三十九年度に改めて追加をお願いするという結果になりました。

この休憩所は、約七十坪ばかりございまして、本年の夏に雨に合わせたいという考えで入れを二月に果でやったのでございまして、茶店が動かなかつたという結果になりました。果工事が延びたという関係で、市の方で付帯的な請負工事ができませんので、改めて三十九年度にも願ひすまわけてございまして、よろしくも願ひいたします。

・建築課長(高野克三君)第八款住宅建設について、市説明申し上げます。公営住宅法によりまして、補助基本額が改正をしまして、昨年までは一般地区に指定されてたが、本年度は特別地区に指定されたために、補助金におきまして、四十五万円の増額、そのうち事務費が三・六%を見



込むことになつておりますので、二いにおきまして一万三千円の増、  
それに伴いまして暫定手当、千円の増とになりました。

實金で、四万二千円、計上してございすが、請負に於けるも  
のに対しては、給料を見込んであるものと對して實金を一か  
月以上計上してはならぬ、という通知がございしたので、三  
万二千円の減額をいたしました。

旅費につきましては、二万九千円の増額、需用費におきまして  
消耗品で三万円減額になりました。修理費一万円の減、  
負担金等は五千円の増とありますが、いろいろな会合等  
がありまして、そのために負担金が出ますので、見込んだもの  
でございます。

・消防署長(岩田実君)第九款消防費について申し上げます。  
非常備消防費四十三万六千円、二いは議案第七十四号で  
や審議いただきます非常勤消防団員、取報償金で

でございますが、これは、共済制度のようなものになつております。  
國の方に基金がございます。こゝ基金に年間消防団員  
一名について九百円払い込むことにありまして、取報償  
金が基金の方から支払われることになっております。

そのため、昨年十月一日に四百八十四名に對する九百円  
の割合で四十三万六千円でございまして、この基金に  
對する払い込みに充てるわけでございます。

・庶務課長(干場伊右エ門君)教育費について、説明申し  
上げます。

教育費の追加総額八百三十七万四千円でございしますが、  
各項別に申し上げたいと思ひます。

まず、教育総務費、事務局費でございしますが、負担金  
補助及び交付金、十万円も願ひいたしまして、これは、  
六月十八日、十九日、二中において行なわれます。関東甲信

越地区の中学校長、第八回総会、地元で申催いたします。  
関係上、その負担金といった—ま—て十万円追加をお願いいた—ま—した。

小学校費でございますが、十一節備品購入費、三十一万、  
これは給食設備費といった—ま—て那古小学校が十一万  
円、館山小学校が二十万円、それぞれ消毒保管庫をお願  
いいた—ま—て寄付で受け入—ま—て市費で充当して  
あります。資金と合—ま—して購入する計画でございます。  
次に中学校費でございますが、学校建築費といった—ま—  
て、十一節の需用費で二十八万五千円のうち消耗品  
五千万、これは二千万、プール工事の費用としてお願いいた—ま—す。  
修繕料二十八万円は、町東甲信越中学校長会の会場  
とワ—ま—した二千万の会場整備費でございます。

十五節工事請負費七百五十万円でございますが、これは

二、三メートルの新設工事でございます。二十五メートルの十五メートル、セコースでございます。深さ一・二メートルから二メートル、七百五十万円の内訳を申し上げます。大体工事費といまして五百三十万円、浄化装置関係で、百六十万、その他便所、脱衣所、そういうもので、五十万、三万円でございます。

その財源内訳は国庫補助金で九十三万七千円、寄附金で三百八十六万三千円、一般財源が二百七十万でございます。

次に高等学校の関係でございますが、役務費十七万八千円に更正いたしましては、今度電話を引いたんでございますが、その電話債券が一万円かかりますので、その投資及び出資金に一万円をまわしまして、通信運搬費のあと一万円減額した次第であります。

増 次は社会教育費でございますが、総務費の負担金補助及び交付金でございますが、一万三千円、これは昭和三十八年度の安房地方の社会教育連絡協議会の負担金が一萬八千七百七十円のところ、七萬六千二百円だけ予算化してあり、不足が一萬二千五百七十円あったのでございますが、それを追加をお願いした次第でございます。

次に公民館費、役務費で七千円でございますが、これは船形、那古、分館、これは電話も有線放送も今までなかったりでございますが、農協の好意によりまして、総額一萬二千円ばかりかかるのでございますが、それを七千円で充ててくれるようでございまして、あと維持費はやはりもうこうでサービスしてくれるようでございます。それをお願いいたします。

次は保健体育費が十五萬九千円、追加でございますが、

こゝは十九節役務費四千円、通信運搬費となっておりますが、現在市営プールには電話の施設がなく、不便を感じていたのでございしますが、今度あそこに臨時に公衆電話を引いていただいて皆さんに便利に供したいということと、ございまして二カ月から四千円ということとで計上いたしました。

次は十九節の負担金補助及び交付金十五万五千円、そのうち五千円は、今度郡、郡市の体育指導員連絡協議会というものができまして、その負担金として五千円をお願いいたしました。

十五万円は、館山市の体育協会が負担金でございしますが、こゝは、集休の選手、派遣、宿泊費等でございまして、当初二十八万円をお願いしたものでございしますが、もう十五万円必要ということと、十五万円追加をお願いい

た次第であります。

・財政課長（長谷川広治君）以上歳出と合わせまして千百七十八万六千円ということに相なります。

続きまして歳入に移ります。

歳入におきましては地方交付税におきまして二百五十五万、歳入として見込みました。これは地方交付税が現在うところ本決定してございまして現在我々の計算で六八百万円は伸びるという予想を持っておりますが、適目の新増の地収の関係で多少かわるという予想も考えまして、確実なところを二百五十五万計上いたしました。

五款使用料及び手数料といたしまして二十七万二千円計上いたしました。これは高等学校の使用料が現在、人員費からおしまして二十五万二千円ばかり増額になるのでこれを計上いたしました。

なお、プールの使用料は当初予算に組みましたもう一つ、二万程度見込めるということで二万円合わせまして二十七万二千円を追加計上いたしました。

国庫支出金といしまして百四十二万四千円の追加をいたしまして、これは歳出で申しました公営住宅、二中のプールの関係でございます。

それから、寄付金として四百七十三万円を計上いたしました。これも歳出のところに説明があつたと思いますが、二中のプールの寄付金三百八十六万三千円、那古小と館山小の給食保管庫と申します。それから三十一万、合計四百七十三万三千円でございます。

なお、繰り越し金として休養施設や特別会計から三十八年度の繰り越し金を考えまして約二百二十万程度は一般会計に繰り入れることができるという予



想のもとに二百二十万円を一般会計に繰り入れという計上でございます。

諸収入として百十六万七千円を計上いたしました。

これは歳出で申し上げました日本脳炎のワクチンの実費徴収代が百十二万五千円、金交付金として四万七千円、これは三月船形保育園の隣りが大事にかりまして保育園のガラス等が相当被害をこうむったわけでございますが、その大失保険料に相当するものでございますが、四万七千円計上をいたしました。

歳入も合わせまして、千百七十四万六千円ということでございます。

衛生施設課長（吉田耕一君）次に議案第百七十七号の特別会計につきまして、説明申し上げます。

補正予算総額は歳出歳入とも三十三万三千円を

今回追加いたしまして予算総額を二百二十三万四千円といたしたい。このように考える次第でございます。以下各款項区分、内題につきましては、次の表により中説明申し上げたいと思うわけでございます。

歳出が三十八万三千円、補正額でございますが、これは事業費といたしまして、いだけ、資金が必要になつたわけでございます。

この歳入といたしまして、歳入で事業収入として二十一万円、繰越金、確定を見まして十二万三千円を全額計上いたしまして、三十三万三千円、これに予備費、五万円を減額いたしまして、歳入歳出とも同じにいたわけでございます。

明細書にうまいて申し上げます。歳出が一級管理費におきまして三十八万三千円、この工事請負費でございます。

ますが、と畜場々と室のコンクリートでございしますが、全面にコンクリートが使用に耐えないような破損をきたして、おたわけでございましてどうしてもこれを補修しなければならぬというふうな関係から、この室の補修工事、並びに水道管の漏水が甚だしいというふうなことで、この工事、並びに病気の中和と室が別にございしますが、この修正備補修ができておらなかつたというふうなことからいいたしまして、今回この補修工事を実施いたしたい。このように考えて、工事請負費に計上した次でございします。

次に議案第八十七号、簡易水道の特別会計補正予算について申し上げたいと思ひます。

補正予算の総額は歳入、歳出ともに三十六万円を追加いたしまして、総額が二百九十八万四千円とわかるわけでございます。

水道管理費でございますが、鉅切簡易水道でございますが、全部できやうをみたわけでございます。

しかしながら、その工事を実施いたしまして、その地域に、ある学校の寮の敷地内に配管したわけでございますが、その敷地内に近く建設されるというやうなことは、申し出がありまして、関係から、その付けかえの工事に要します費用、また井戸が一本を予定しておいたわけでございますが、水源が把握できないというやうな関係から、第二の井戸を掘ったわけでございまして、それに要しますポンプ室の周囲の配管工事、或いは、予定しておりませんで、した配水池の、上り口が急傾斜で上るのに困難だといふやうな関係からいたしまして、階段を作つて参りたい、このやうに考えておるわけでございます。

なお、第二の井戸を掘りまして、その関係で配電盤も一基不足

を生ずるというようなことからいたしまして、今回このような追加をお願いしようというものでございます。

第二、井戸のところの用地の買い上げ代金におきまして、七万五千円を見ただけでございまして、大体二十五坪程度を市が買い上げまして、そこに井戸を掘ったわけでございますが、まだ手続當中でございしますが、今回の費用を計上していただきたい。このように考える次第でございます。

従いまして三十万円の使用料、それに不足額二十万円を予備費を減額いたしまして、財源に求めたわけでございます。

歳入、三十万六千円につきまして、予定以上の夏季給水増が見られるという面が、確實視を以て参りまして、関係がういたしまして、夏季の給水人口の増をここに

三十六万円程度見込んで財源といいたる次方でございます。

・商工観光課長（小沢正治君）議案第七十九号について、  
説明申し上げます。

先ほど一般会計、歳入の繰り入れ金のところでも説明申し上げました通り、休養施設鳩山荘会計から、一般会計へ二百二十万円繰り出しするため、こゝが予算措置でございまして、三十八年度の繰り越し金二百二十万円を歳入へ計上いたしまして、その額を一般会計に繰り出してきて歳出へ計上ということになるわけでございます。

・議長（黒川佐太郎君）本日、会議はこれにて延会いたします。  
二十日、二十一日に議案審査のため休会と。次会は二十一日午前十時開会といたします。

その議事は本日に引き続き議案審議といたします。

本日、会議に付いた事件

一 開会

一 議長報告

一 議長報告（出席説明者）

一 会議録署名員、指名

一 会期決定

一 市長議案説明

一 報告第一号乃至第二号

一 通告質問

一 諮問第一号

一 議案第一〇号乃至第九号

その議事は本日に引き続き議案審議といたします。

午後四時四十分延会

今日の会議に付いた事件

本議事日程は同じ。

出席議員

吉田勇治郎

鈴木正一郎

小柴 孝

館石伝蔵

田中祿郎

秋山六三郎

田村源治郎

望月照正

安西益男

辻田 実



石井 正 黒川 佐太郎

菊井 敏博 志村 信作

小沢 恵太郎 関 武夫

西村 真次 藤田 好治

保科 忠夫 江田 徳太郎

君塚 喜三 中村 省吾

島野 茂樹郎 萩生田 七郎

鳴田 繁 山田 敬宇

鈴木 市蔵 安藤 竜吉

安次 徳順 三沢 節

高橋 文治 山本 昇

松本 藤太郎 山口 康

